

がっしょう 「合掌のころ」

平成21年 11月 第1週放送

ほんどう がっしょう
本堂の前で一人の青年が目を閉じ合掌していました。

すがた ひ
私はその姿が目にとまり、強く惹かれました。

かも りん
そこには青年が醸し出している凜とした空気があったのです。

まと みなもと りょう すなわ がっしょう
青年が纏う空気の源はどこにあるのでしょうか。それは、彼が両の手を合わせていること、即ち合掌
にあると思いました。

*

れいぎさほう
合掌は、インドにおける礼儀作法のひとつの形です。それが、仏教と共に日本に伝わってきました。

たいしょう かんしゃ
私たちが行う合掌には、祈る対象への、また感謝する相手への思いをひとつにする意味合いがあります。

*

私たちが合掌するのは、どんな時でしょうか。

いの
ひとつは、「祈り」の時です。

た まか
合掌し、頭を垂れて祈る時、私たちは自分の力だけではどうすることもできないことを、祈りの対象にお任せ
をしているのです。

かんしゃ
ふたつめは、「感謝」です。

誰かにたすけられた時、やさしい心をそそいでもらった時、私たちは、思わず合掌することがあります。その
合掌には「感謝」の心が、たっぴりともっているのです。

みずか しんこう あらわ とき
もうひとつは、「自らの信仰を表す」時です。

しよせつ みぎて ひだりて
諸説あるようですが、右手は仏さまを、左手は自分を表しているといわれています。

ぶっきょうと
仏教徒である私たちが、自分を仏さまに近づけてゆく信仰の姿なのです。

*

あの本堂の前の青年の合掌は、まさしくそのような合掌であったのだと思うのです。だからこそ、私は強く彼
の姿に惹かれたのでしょ

*

みなさま

まいにち

しょくじ

皆様も合掌を、毎日の生活の中でつとめて行ってみませんか。食事の時、誰かに優しくしてもらった時、

ほとけさま

せんそさま

そして 仏様・ご先祖様の前で・・・

それぞれの事に対し、心をひとつにして、手をあわせるのです。

それは、限りある人生の、一日一日の大切な時間を、深く生きることにつながっていくのです。